

山梨県農政部試験研究機関（水産技術センター）評価委員会

1 評価委員

委員長	岩田智也	学識経験者	山梨大学生命環境学部環境科学科 准教授
委員	三浦 久	生産者（流通）	山梨県漁業協同組合連合会 副会長
委員	生原洋征	生産者（生産）	山梨県養殖漁業協同組合 組合長

2 課題評価委員会

(1) 第1回 令和元年8月23日（金） 水産技術センター本所会議室

① 事前評価課題「魚食性鳥類対策の効率化」 主任研究員 加地弘一

研究の必要性	4.0
研究内容の新規性	4.0
研究目標、研究計画の妥当性	3.7
研究予算、研究体制の妥当性	3.0
総合評点	3.7

養殖業者にとっても魚食性鳥類に対する対策は不可欠であり、本研究の必要性は高い。また、本課題で提案されているドライアイスや防鳥糸などの対策手法はすべて新規に発案または開発継続がなされているものであり、有望な対策と考えられる。一方、研究計画等についてはより具体的な案を策定することが望ましく、とくに高所作業等についてはドローンの活用など、安全性の確保も検討していただきたい。今後、本課題で得られた成果をより全国的に普及していただくとともに、さらにカワウの適正個体数の設定については多方面からの検討も望まれる。

② 中間評価課題「県産アユ種苗の有効活用に関する研究」 研究員 芦澤晃彦

研究計画の進捗度 4.0点

県産アユ種苗の有効活用は、県の水産漁業振興にとって重要な課題である。本課題では、外来性珪藻類であるミズワタクチビルケイソウの影響を国内で初めて評価しており、想定以上の成果が得られている。また、アユの耐病性獲得についても実験室環境で良好な成果が得られている。今後、人工飼料による種苗への影響についても検討していただきたい。

(2) 第2回 令和2年1月29日（水） 水産技術センター本所会議室

① 事後評価課題「低魚粉飼料でのニジマス成長優良系統の選抜試験」 主任研究員 三浦正之

研究目標の達成度 3.7点

飼料価格の高騰により養殖経営が圧迫されているなか、生産経費削減効果が期待できる優良系統の選抜に成功しており、当初の目標が十分達成されている。同時に、共同研究により貴重な生理学的データが多数得られており、学術的価値もきわめて高い。優良系統の肉質と食味については、今後の評価を期待したい。

② 事後評価課題「バイテク魚の養殖特性に関する研究」 主任研究員 三浦正之

研究目標の達成度 4.0点

山梨県産のブランド力のある水産物の創出としてきわめて有効な成果が得られている。肉質や食味はすでに消費者からも好評を得ており、加えて、基礎データの蓄積、養殖業者への普及、商品化や流通におけるブランディング戦略など多方面にわたって工夫がなされている。一方で、販売店の情報などはいまだに広くは知られておらず、さらなる宣伝普及に期待する。

- ③ 事後評価課題「魚食性鳥類による被害の軽減技術開発」 主任研究員 加地弘一
研究目標の達成度 3.7点

全国に先駆けた取り組みと新たな技術の導入により、安価で安全性の高い被害軽減策や繁殖抑制策の構築に成功している。現場では、実際にカワウの生息数の抑制に効果を発揮しており、当初の計画以上の成果が得られている。今後の継続的な技術開発と普及に期待している。